

X線について正しい知識を持ちましょう！



普段行われている歯科診療の中でレントゲン診査は、正確な診査・診断を行う為に欠かせないものになっています。今月の新聞ではX線について正しく認識していただけるようにお話ししていきたいと思っております。

放射線が人体に与える影響の大きさは、吸収された放射線のエネルギー量だけでなく、放射線が当たる組織によっても異なります。放射線の影響の大きさは、一般に実効線量（シーベルト）という数値によって表すことができます。私たちは日常生活の中で、周りの環境から常に放射線を浴びています。これは、自然放射線と呼ばれ一年間で約 2400 マイクロシーベルト（世界平均）に達すると言われております。歯科用 X線は 4~20 マイクロシーベルトと言われております。つまり歯科用 X線撮影による放射線の影響は自然放射線と比較してはるかに小さいのです。

歯科用 X線には、デンタル X線写真とパノラマ X線写真、そして CT があります。

デンタル X線写真は小さなフィルムで撮影します。これは普段の治療において最も身近なものになります

パノラマ X線写真はすべての部位を展開図として総合的に見る事ができます。そして CT はさらに全体を立体的にみることができます。例えば、歯肉の中に埋まっている親知らずを確認できるだけでなく上顎洞炎（蓄膿）を確認出来ます。2次元的に見るだけでなく立体的にみることができます。



クインテッセンス出版株式会社 nico2007.3月号参照

最近当医院では、最新鋭の歯科用 CT を導入しました！歯科用 CT は医科用 CT の X線量の 10分の1 と言われております。（詳しい X線量の比較表は当医院 HP で確認いただけます。）詳しい診査・診断を行うために当医院ではレントゲン撮影だけではなく CT 撮影を行わせて頂いております。少しでも疑問や不安に思われるところがありましたら何なりと院長・スタッフまでお尋ね下さい。